

上野幌・青葉地域

小規模校検討委員会ニュース

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会では、上野幌・青葉地域4小学校の学校規模の適正化を進めるうえで
の諸課題について検討しております。検討状況については、「検討委員会ニュース」として、随時保護者や地
域住民の皆様にお知らせしてまいります。

2016.1.20 第8号

発行：上野幌・青葉地域小規模校検討委員会

第8回検討委員会 について

12月15日(火)午前10時から、青葉小学校で第8回の検討委
員会を開催しました。

第7回の委員会に引き続き統合パターン案などの検討を行いま
した。

報告事項 個別に寄せられた 意見について

第7回検討委員会以降、特に事務局や各委員に意見などは寄せら
れていません。

検討事項について

第8回検討委員会では、検討を着実に進めるため、年度内には統
合後に活用する校舎を決定し、それを基に具体的な検討を行う旨の
提案に沿って検討を行いました。

■委員からの提案

はじめに、委員から今までに検討委員会へ寄せられたいろいろな意見や委員会での検討状況を
踏まえて、今後の検討について提案がありました。

- ・長期間に渡り検討を続けているが、何も決まっていない状況。
- ・これ以上このまま同じように検討を進めても結論が出ないと考えている。
- ・統合後に活用する校舎を先に決めて統合時期を明確にするため、下記のとおり具体的な提
案をしたい。

～提案内容～

■統合後に活用する校舎

- ・「青葉小学校」と「上野幌東小学校」の2カ所とする。

■統合後の校区

- ・サイクリングロードを境に「青葉小学校」と「上野幌東小学校」に分ける。
- ・上野幌小学校校区のうち青葉地区の青葉町9丁目1・2番、10丁目、16丁目を青葉小学校
区に編入する。
- ・在校生に限り、上野幌小学校校区のうち厚別南4丁目から7丁目の児童は、青葉小学校に指
定変更できるようにする。

■統合後の校名

- ・「青葉小学校」の名称はそのままとし、上野幌東小学校の校舎に統合する新たな学校は「上
野幌小学校」の名称を引き継ぐ。

委員から寄せられた 主な意見

提案のあった統合後に活用する校舎や校区、統合後の校名について、各委員から以下のような主なご意見、ご質問がありました。

<統合後に活用する校舎について>

- スケジュール案の資料には、「最短で平成 27 年度末までに統合後の活用校舎の決定」とあったので、可能なら平成 28 年 3 月までに活用する校舎を決めたい。
- 上野幌小学校の名前を残すことについては、地域住民として違和感はなく、あとは上野幌東小学校の校舎を活用するか、上野幌西小学校の校舎を活用するかの問題で、上野幌地区の 3 校を 1 校にするのがスムーズに進むのではないかと。
- 宅地造成やマンション建設などによって校区の児童数は大きく増減するが、将来的にどうなるかはわからないので、青葉小学校と上野幌東小学校を活用する提案を原案として議論を進めるべき。
- 青葉小学校と上野幌東小学校の校舎を残すことには賛成。上野幌小学校が 2 つに分かれる場合、統合前に行われる交流事業の参加が二重になり、学校の負担が増えるのではないかと。
- 今回の提案の中では、上野幌東小学校の校舎を活用するという話になっているが、上野幌小学校の地区センターや増改築といった問題はあるものの、今後の議論の中で上野幌地区の 3 校でどの校舎を活用するか検討すべき。
- 上野幌地区の 3 校を 1 校にすることは構わないが、校舎に関しては通学距離や校舎の大きさなどからの検討が必要で、上野幌東小学校と現時点で断定すべきでない。

<統合後の校区について>

- 校区が連合町内会をまたがない提案は望ましいのではないかと。併せて各町内会合同で見守りを行っていくことも検討してはどうか。
- 上野幌地区の 3 校が 1 校になった場合、中学校進学時に別れが生じることになるが人間関係の構築の上では必要なことではないかと。
- 今回の提案に関しては、一部校区替えを伴うことから、上野幌小学校がキーポイントになるのではないかと。青葉小学校に少人数の上野幌小学校の児童が行くことに対して、保護者と児童の心配や教員の苦労など相当なものが予想される。
- 今回の提案では青葉小学校の校区が相対的に狭くはないかと。また、青葉地区だけ急に子どもが増えるとも考えにくいのではないかと。

- サイクリングロードをまたいだ青葉町9丁目、10丁目、16丁目为上野幌小学校から青葉小学校の校区となったら、40名ほどの子どもが対象になる。
- 上野幌小学校の名前を残すことと町内会連合会の区域と校区を一致させることを考えるとこの案が良い。
- この案は、適正化の統合パターンではなく、通学区域の線引き変更になるのではないか。

(事務局回答)

今回提案のあった通学区域の変更も一つの方法ではありますが、青葉小学校が今回の適正化の取組に組込まれないと、将来的に児童数が減少して近隣の小学校に吸収され、地域に学校が無くなってしまいう懸念があります。

そこで青葉小学校で十分な児童数が確保できるよう、いろいろな検討を行っていく必要があります。

例えば、提案にあったように上野幌小学校の校区内で青葉小学校にも通学できるような指定変更区域の設定を行うことにより児童数を確保できるようにするといったことも考えられます。

青葉小学校を単独に残して適正化の取組から除外するのではなく、4校の統合後に学校規模の適正化が図れるようにしていただく必要があると考えます。

- 統合は結局のところ校区の変更になるのではないか。1学年2学級以上を維持できるのかどうかといった視点で検討すべきである。
- 校区は、サイクリングロードで分けるのではなく、国道274号で分け、現在の上野幌東小学校に近い児童はどちらにも通学可能とするが、中学校は青葉中学校で変更なしとするのはどうか。
- 中学校への進学の際に分かれた経験がなく心配だといった意見があったことから、当事者となる上野幌小学校の皆さんが感情的な部分を含めて大丈夫なのかと感じた。
- 今回の提案では上野幌地区の3校の統合となるだけで、青葉小学校は校区の線引きは変わるが規模はほとんど変わらない。
- 4校を2校に統合して、上野幌小学校の校区で上野幌東小学校に近い児童はそちらに通えるようにしてはどうか。
- 厚別南4～7丁目は青葉小学校と新しく統合する上野幌地区の小学校のどちらかを選択できるようにし、共栄小学校に近いところは配慮が必要。校区の線引きは後にして、先に4年後の開校となるよう平成28年3月までに活用する校舎を決めてはどうか。

<統合後の校名について>

- 当初は4校とも閉校し、新たに統合校を新設して新しい校名にするのではなかったか。
- 今までこの検討委員会での検討は4校の統合だと思っていた。今回の提案は、上野幌地区の3校を統合して「上野幌」の名前を残すといったことなのか。
- 地域には上野幌小学校が残るのかどうか、青葉小学校と統合すると「上野幌小学校」と名乗れなくなるといった意見が根強い。

<その他>

- 上野幌小学校は、もともとは国道よりも南側の住民が多く通っていた学校であることから、上野幌地区にできる統合校で上野幌小学校の100年を超える歴史を受け継いでいくことが望ましい。
- 上野幌小学校は規模も小さく、校舎も変わる可能性があるが、長い歴史もあり、地域にも根ざしていることから、こうした歴史や経緯はきちんと残して欲しい。
- 青葉小学校の統合はダメだということではないが、人口が増加する可能性があることから、もう少し時期やタイミングをみて結論を出してもいいのではないか。
- 今まで1年半近く話し合いをしてきたが、全員が100%満足する統合パターンはないことから、今回の提案は非常に現実的ではないか。
- 今まで検討してきた4校を2校の統合が望ましいのではないか。
- 学校規模の適正化を考えると、提案にある上野幌地区の3校を1校ではなく、4校を2校の統合が望ましいのではないか。
- 中学校への入学を考えると、4校を2校の統合が妥当ではないか。
- 提案には賛同するが、上野幌地区の3校の統合にとどまるのかどうか、枠組み自体はきちんと確認しておきたい。
- 今まで検討を行い何も決まっていなかったが、決して無駄な話し合いをしていたのではない。意見の全員一致が困難な状況の中、最優先すべきは「子どもたちのため」の学校統合である。
- 1学年1学級だと入学から卒業まで同じメンバーとなり、良さもあるが、児童だけでなく保護者の間でもうまくいかないこともある。
- クラス替えができ、人との交流ができることは大事なことであり、検討委員会が目指しているのもそこにある。統合パターンの検討を一步でも進めて目途をつけたい。委員の任期もあるため、年度内に先の見通しがつくようにしたい。
- 地域の思いもあるが、規模の適正化というのは、ある程度児童数の均衡化を図る必要があるのではないか。
- 上野幌地区の3校は、「本家」の上野幌小学校と「分家」の上野幌西小学校、上野幌東小学校の統合になることからスムーズに進むと

思うが、青葉小学校は児童が現在 200 名ちょっとで、今後一気に 50 名、100 名と増えていくことも考えづらいことから、どのように適正化されていくのか気がかりである。

- 今回の提案は、取りようによっては上野幌地区は統合、青葉地区は通学区域こそ変わるが適正化の対象外といったことにならないか。
- 在校生やこれから入学する子どもたちが本当に良かったと思える統合をどう実現するかが一番大切なことではないか。
- 保護者としては、早く小規模校を解消したいと思っている。ただし、上野幌西小学校と上野幌東小学校の 2 校を統合しても 5 年後にはまた児童数が減るので、それなら上野幌小学校は青葉小学校と統合しないで、上野幌地区の 3 校が統合して上野幌地区の安定的な学校規模の適正化を図りたい。
- 青葉小学校と上野幌東小学校の校舎を活用した場合に、校区の線引きをどうしたら両方の学校が複数学級を安定して維持できるのかを検討し、その後に歴史や校名などを考えていくべきである。
- 次の委員会につなげるため、今回の提案が適正化にあてはまるのかどうかについては確認しておきたい。

(事務局回答)

今回の提案は、今まで検討してこられた 4 校を 2 校に統合するパターンと 3 校を 1 校に統合するパターンを足して 2 で割ったようなパターンと受け止めています。

適正化はあくまでも 4 校を対象にして考えていただきたいので、仮に 4 校を 2 校にした場合、上野幌小学校の校区の一部を一定期間でも、指定変更制度で両方の小学校を選べるようにするなど、保護者や地域の皆さんの意見を反映させながら、4 校で統合後に学校規模の適正化が図られるように検討していただく必要があると考えます。

- 今回の提案も町内会の意見も理解できるが、一度原点に帰って、統合校の数や時期もしっかりと決めて話合わないとは前に進まない。
- 学校を統合する時期を決めると、保護者はそれを現実として受け止めていろいろと考えることができるので、安心できるのではないか。
- 話合いが行きつ戻りつして、先行きも不透明となると、ニュースをみて検討委員会は何をやっているんだと思っている人が多いのではないか、スピード感が必要ではないか。
- 委員にも町内会や P T A の任期があり、交代となると 4 月にはまた最初からやり直しとなる可能性もあることから、次回で道筋だけでも決めるべきではないか。
- 青葉中学校の校区は決まっており、上野幌小学校と青葉小学校が一緒になっても分かれても、住んでいる場所が変わらない限り青葉中学校に進学することになる。

- 中学校については今後議論になると思うが、この委員会でこれ以上検討しても意味がない。
- 今回の提案に対しては、今後は解決できることを前向きに進めていくことで意見は一致しているのではないか。
- 青葉地区は青葉小学校を残したい、将来的な人口増も考えられるので判断を先送りしても構わないといった意向だが、上野幌地区としては急ぎたいとなると、折衷案として今回の提案は妥当ではないか。
- 可能であるなら次回の委員会での検討を円滑に進めるため、地域や保護者の意見をまとめてはどうか。

■通学安全に関する 作業部会について

上野幌東小学校と上野幌西小学校が仮に統合した場合の通学安全に関し、両校で構成する作業部会から報告がありました。

- ・小学校区と中学校区が同じで、小中連携授業が進めやすくなるほか、上野幌中央町内会や青少年健全育成委員会など、両校共通のつながりが多数ある。
- ・通学路に関しては、厚別中央通を渡るルートを2カ所に限定できると、児童の見守りや安全確保に大きな問題はなく、通学路を限定すれば、教職員での見守りも可能と判断される。
- ・上野幌西小学校の校舎を活用した場合、上野幌駅のあたりで2キロを超えバス通学の対象になるが、徒歩ではバス停のある国道に出る際の歩道が狭く、距離も遠く、安全面での懸念がある。
- ・上野幌東小学校の校舎を活用した場合は、厚別光陽団地からの通学が遠くなるが、2キロ以内で現行の徒歩通学の基準内となる。

■第9回の検討委員会 について

第9回の検討委員会は、2月上旬の開催を予定しており、今回話合われた内容を基に、統合後に活用する校舎やそれに付随する校区の設定、指定変更区域等について、PTAや地域から集約したご意見を持ち寄り、引き続き検討を行います。

■ **ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せ下さい** ■

■ 上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局 ■

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課（学校規模適正化担当）

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 S T V北2条ビル

T E L 011-211-3836 / F A X 011-211-3837

E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ この検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載予定です。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>